



情報掲示板

【寄付御礼】(ファミリー会費を含む)

いぶきファミリー (いぶき福祉会会員) のご案内

月々定額の会費で、いぶきの活動を応援し障害のある人にとことん寄り添うための、継続的な支援の仕組みです。

会費 月会費 1口 250円 500円 1,000円 3,000円 5,000円
5種類から選べいただけます。

支払方法 ①クレジットカード決済 下記アドレスまたは、右記のQRコードよりお手続きください。
<https://deco-boco.jp/projects/view/12>
②郵便振替：00840＝3＝91146 加入者名/いぶきファミリー



お問合せ いぶきファミリー事務局
TEL 058-233-7445 FAX 058-232-9140 E-mail ibuki.m@ibuki-komado.com
(タイトルにいぶき福祉会会員と記入)



編集後記

林守男

長い梅雨も明け、青空とともに暑い岐阜の夏がやってきました。梅雨の晴れ間と違い、抜けるような青空のキャンバスに、綿菓子をちぎったような雲が浮かんでいます。季節の変わり目は、良しにつけ悪しきにつけ色々な感情がわいてきます。

日本語には多くの数称があります。一個二個や一杯二杯などで、すべての普通名詞に決まりがあります、外人が日本語を学ぶ際の大きな障壁となるものです。花は一輪輪ですが、一枝に咲いた桜や、アジサイのようなたくさんの

花が集まっている場合は、一朵二朵(いちだ、にだ)と数え、ひとかたまりの物を数える際に用います。司馬遼太郎の「坂の上の雲」の冒頭部分でも「…坂の上の一朵の雲を指し…」とあります。

いぶきも法人開設以来27年を迎え、発足当時の「一朵の雲」が、二朵になり三朵になり、今は何朵にも増えそれが重なり合い夏の雲のように成長してきました。

梅雨明けの青い空に浮かぶ雲を見ていてそんなことを考えました。



夢よもっとひろがれ



MUSCARI 2021

ムスカリの1、2期生が楽しい思い出話に花を咲かせながら描いたイラストを卒業制作でTシャツにしよう！とみんなのイラストを集めました。着るたびに楽しいことを思いだせるといいなあと思います。

もくじ

- 2・3 行事報告：第1回ぎふハッピーウォーク
- 4 わたしと娘といぶきと
- 5 活動報告：紙漉き工房より
- 6 連載：心のバリアフリーナビゲーター
恩田聖敬が愛を語る
- 7 活動報告：クラウドファンディング
- 8・9 仲間のすがた
- 10 商品ものがたり：ボン菓子
- 11 新しい会員制度への移行についてのご案内
- 12 情報掲示板・編集後記

第1回

ぎふハッピーウォーク

いぶきたーぶる 古田 洋右

私たちは昨年度、新型コロナの影響をうけて『いぶきふれあいまつり』を中止することにしました。これは、私たちが岐阜市の島地区で30年以上活動を続けてきた中で初めての出来事でした。いまだ終息は見えず、世間でも様々なイベントが規模の縮小・中止を余儀なくされたり、イベントどころか日々のちょっとした外出や外食を楽しむことでさえためらったりするような状況の中で、私たちは今年も同じ決断をするしかありませんでした。「仕方がないよね…」そう話しつつも、こうした判断が、ずっと大切にしてきた『つながり』を薄れさせていくことになるようで何とも言えない不安と残念な気持ちでいっぱいでした。周囲を見渡すと、そうした心の晴れない、不安でいっぱいな状況にあるのは私たちだけではないことはよくわかりました。「このまま、ただの中止では良くない」と、これまで応援してくれた方たちと「今の私たちにできること」で一緒に楽しみたいと、新しい企画に取り組むことにしました。



第二いぶきこらぼのみんなの手作りフラッグ

新しい企画と言っても何から手をつけたらいいのか…、何をやるにしても島地区を離れたくないけどどうしたら…、企画は手探りの状態で始まりました。ここにアイデアをくれたのは、FC岐阜さんとのつながりでした。「FCぎふで『ウォークイベント』をやったことがあるよ」と。まつりと同じ5月23日(日)に「第1回ぎふハッピーウォーク」を開催することが決定しました。岐阜市の東西に流れる長良川の河川敷



(高橋尚子ロード)をみんなで楽しく歩こうというこの企画。スタートの長良橋から島地区にある忠節橋まではおよそ2.5km、往復で5kmの道のりです。5kmの間を目標タイムや距離を設定せず、好きな時間に自由にのんびり歩いて参加する。たくさんの人で一か所に集まるわけでもなく、競争したり順位を決めたりするわけでもなく、同じ金華山や長良川を眺め



事前にハッピーウォークを楽しみました！

ながら岐阜の良さを再発見しながらゆるく楽しくつながることを目的に企画を進めていきました。

「当日参加できないグループは事前に歩いているところを撮影しよう」「緑の物を身につけて歩こう」「緑の腕章や旗を仲間たちと作ろう」「仲間たちと横断幕を作って写真撮影をしよう」「FC岐阜さんやコープぎふさんと一緒にできることは…」いろいろなアイデアが出てきました。しかし、5月上旬、岐阜市が新型コロナまん延防止等重点措置の対象に含まれてしまいました。「やはり中止しないといけないのか…」とても迷いましたが、「やりたかったことを発信し、少しでも多くの人に観てもらおう」と、お客さんと呼ばない施設行事として開催しその様子をLive配信するという企画に変更しました。ハッピーウォーク当日は、事前の雨予報がウソのよ

うな快晴となりました。いぶきの仲間たちも、当日会場で参加する人、別会場を歩く人、Live配信を観て応援する人、事前に歩いた人、応援グッズをすることで参加した人と多様な形でのイベントとなりました。Live配信を通して仲間代表の牧野さんと桑原さんが力強く開会宣言し、澄み渡った青空の下、みんなの晴れやかな笑顔でウォークがスタートしました。配信では会場と仲間たちのいる場所を中継で結んでインタビューしたり、事前に歩いた様子や普段の仲間の仕事の様子を撮影した動画を流したりしました。司会者から歩いている仲間たちに「どうですか？暑くないですか？楽しいですか？」と問いかけたときの「気持ち良くて楽しいよ」との返事がとても



イイイイイ



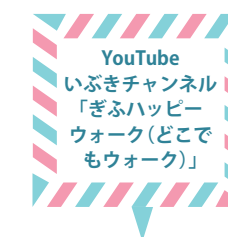
自分たちの商品をPRしながら、歩きます

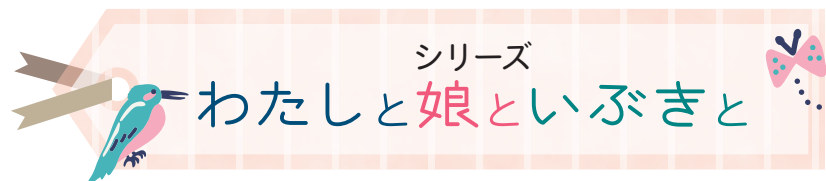
印象的でした。仲間たちも外に出て行なう久しぶりの大きなイベントに気持ちが開放的になっているようでした。



LIVE中継中！

コロナ禍において、思うようにできないことはたくさんあります。今回も何度も「中止」を考えました。しかし、今回のハッピーウォークではみんなが同じ参加の仕方はできないけれど、それぞれのできることを少しずつ繋げたら、新しい形の取り組みができました。こうした多様な可能性の中から新しいコトを創り出せた経験は、これからのいぶきにまた新しい価値をもたらしてくれるのだと思います。これからもつながりを大切に、いぶきのことをもっと知ってもらえる…、そんな活動をしていきたいと思います。当日の配信内容はYouTube(いぶきの小窓チャンネル)からもご覧いただけます。これからもいぶきの活動を配信していきたいと思います。





兼松 義弘

娘「よし乃」は、現在第二いぶきでお世話になっています。2006年4月に入所させてもらい現在まで約15年になります。私の仕事の関係から、中津川市で生まれ、羽島市で保育園時代を過ごし、小学校から現在



ひなまつり おねえちゃんと

まで岐阜市で過ごしています。娘の障害は、知的障害で、自分の意思を言葉や行動で表現するのが苦手で、私たちの言葉を理解するのも苦手です。私たちが娘の障害を知ったのは、中津川市に住んでいた時でした。その後、羽島市へ転居してからは、地元の保育園に通いながら、羽島市の「言語教室」へ通っていました。小学生になる時、現在の岐阜市に転居し、地元の小学校中学校の特別支援学級に通学し、その後、関市にある中濃特別支援学校高等部に進学したのです。小中学校時代には、同級生の子達に「よし乃ちゃん」と常に声を掛けてもらったり、先生からもよく声を掛けてもらい、いつも笑顔でいたことを覚えています。



中学時代 パソコン学習

私たちは娘に何か運動をさせてやりたいと思い、小学校の時から近くにあるスイミングスクールに通わせています。水泳をやっていた縁で、中濃特別支援学

校に進学してから同校の水泳部に入部し、週に何回かの練習に親と一緒に参加させてもらいました。娘は水泳が決して上手ではありませんが、大会に出場させてもらい、私たちも娘の付き添いで、いろいろな場所に行ったことが、良い思い出です。中濃特別支援学校の卒業を控え、妻がいろいろな就業先を調査したり、就業体験したりしたのですが、第一希望であった「第二いぶき」に入所させてもらうことができました。以来15年近くになりますが、娘は、私たちが「今日、いぶきに行く？」と聞くと必ず「行く、行く」と言って、カバンを肩に掛け、玄関先で私たちを待っているくらいです。



道の駅へ納品にきました(真ん中がよし乃さん)

しかし私たちも年齢を重ねるにつれ、娘の面倒を見られなくなる時がいつか来ることを考えると、娘が将来安心して暮らせるようにしてあげることが一番大切なことであると考えています。一昨年パストラル新棟の募集があることを知り、前は「まだ早いかな」と思い応募しなかったのですが、今回は娘の将来を考え応募したところ、幸いにも入所させてもらうことができ、昨年の4月より職員の方にいろいろ迷惑をかけながら暮らしています。毎週土曜日に自宅に帰ってくるのですが、平日の5日間「いぶきで元気にやっているかな。職員の方に迷惑をかけていないかな。」と心配する一方、土曜の朝、元気に帰ってくるのを楽しみにしている私がいるのです。以上、まとまりのない話になってしまいましたが、これが私の大事な娘「よし乃」の生き様です。障害を持って生まれてきた娘に申し訳ない思いと、娘の将来が少しでも不安なく生活していけるようにしてあげることが私達夫婦の義務であると思っています。



第二いぶきこらぼ 大野 晃一郎

6月9日(水) こらぼにて仕事の動画撮影が行なわれました。オンライン(zoom)での配信を予定していましたが、新型コロナの影響で予定していたライブ配信が難しくなり、今回は事前に撮影した動画の配信となりました。今年度もステップ、ポラリス、ほっとの3つの部屋に分かれて、コースターと御朱印帳の仕事をそれぞれ行なっています。ステップでは主にこらぼオリジナルの御朱印帳と弘峰寺さんの御朱印帳の2種類を担当し、ポラリスとほっとではコースター作りを担当しています。今までポケのーと担当だったポラリスも今年からコースターを作り、夏季のカタログ販売やクラウドファンディング「ありがとねバスケット」の返礼品に向けて頑張っています。職員と仲間みんなで協



御朱印帳



コースター

力をして仕事を行なっていますが、工程がとても多いため時間内に終われないこともあります。時間がかかっても、みんなで良いものを作りたいという気持ちを大切に仕事をしています。



和紙をミキサーで細かくしています

撮影当日は全員がそろって仕事を行なうことは難しかったですが、仲間が思い思いに仕事に向き合う様子を撮影できたと思います。撮影が始まると、少し緊張しながらも自助具や周りに視線を向けて仕事と向き合う仲間や、カメラを意識して普段よりもやる気の仲間、いつもはもっと頑張っているのに今日に限って眠気や体調不良から思うように実力が発揮できない仲間など、いろいろな姿が見られました。多くの仲間の楽しみながら真剣に仕事する姿が見られて、とても良かったと感じています。



カレンダーにシールを貼って今日のがんばりを確認します

こらぼでは、仕事の中で仲間ひとりひとりが自信を持ってできること、やってみたいと思えることを大切にしています。仕事の中で、人から任されることや誰かに任せられることを少しでも感じ、自分の気持ちと相手の気持ちにそって協働することが目標。仕事終わりには、できたこともうまいかなかったこともみんなて共有する時間を大切にしています。動画をご覧頂いて普段の仲間の仕事の様子や頑張りを多くの方に感じていただければと思います。



YouTube
いぶきの小窓チャンネル
障害の重い仲間たちが紙すきをしています。ゆっくりと丁寧に
つくる様子をぜひご覧ください！

心のバリアフリー
ナビゲーター恩田聖敬が
おんだ さとし

vol.6 母校愛・旧友愛

愛を語る!



私の母校岐阜北高等学校は、昨年度創立80周年を迎えました。私は北高に進学して心の底から良かったと思っています。もし北高に行かなかったら、今の私の人生は間違いなくありません。私の人生観の基礎は高校時代に築かれました。中学までとの価値観とは明らかに違うパラダイムシフトがありました。それは友人や恩師との出会いによるものです。

高校時代を振り返ると冗談抜きで部活のために学校に行っていました。きっかけは入学式の時、コーラス部の歓迎演奏で、先輩のソロが格好良すぎて惚れました(笑)。当時のコーラス部は全校で40人そこそこの規模でしたが、みんなの努力の甲斐あって、私が1年と3年の時に(おそらく)北高史上最初の合唱コンクール中部大会進出を成し遂げました!そして学校からのご褒美として、受験が終わった3月に第1回定期演奏会を開催させて頂きました。部活を通じて一生の友を得た、一片の悔いもない北高生活でした。

また、教師陣の力のおかげでこれだけ部活に明け暮れた男を、現役で京都大学に放り込んでもらえました。



恩田 聖敬
岐阜県立岐阜北高等学校講演

ALS患者恩田聖敬が母校に向かって愛を叫ぶ!
~ALSでも自分らしく生きられる~

念願の母校での講演実現!(演題のスライド)

そこから17年後、FC岐阜社長として岐阜に戻った際にお声掛け頂いたのは北高同窓会組織『北斗会』でした。2014年の北斗会の総会で基調講演をさせて頂きました。

その後私はALS罹患を公表して2015年12月に

FC岐阜社長を退任しますが、そんな私に北斗会は再度2017年の総会に講演依頼をしてくれました。当時出版した『2人の障がい者社長が語る絶望への処方箋』も総会の場で飛ぶように売れました。更に今年3月には念願の北高在校生に向けての講演の機会を頂きました。私は「思い切り北高ライフを楽しんでください!」と伝えました。まごうことなき私の本音です。もし北高に入らなければ、私の人生はこんなに波乱万丈なワクワクしたものにならなかったでしょう。北高での出会いが私を覚醒させました。時が流れても、ALSになっても、北高の関係は変わりません。旧友や恩師との絆も変わりません。幸せです!



唯一無二の親友Mとの出会いも北高でした!



北高関係者に絶賛頂いた拙著
『絶望への処方箋』

ご支援ありがとうございました!

活動告知

クラウドファンディングに
たくさんのご支援いただきました

西部事業部 森 洋三

4月22日~6月15日の期間でいぶきでは「障害福祉から『ありがとうねバスケット』を届けたい。楽しい、おいしいで対話する社会へ」と題してクラウドファンディングを実施しました。本プロジェクトは仲間の作った商品の詰合せセットを複数回購入することを通して、地域にありがとうの輪を広げるとともに仲間の働くことを支えることを目的としたものです。

今回は、プロジェクトに共感いただいた企業、団体とともに「ありがとうを広げる取り組み」も返礼品の中に用意をしました。FC岐阜さんとはグランドゴルフにご招待する取り組み、おっぱら夢組合さんとは子どもや障害のある人たち100人を気球体験に招待する取り組み、KouzoGifuさんとはひとり親家庭にお弁当を届ける取り組みを企画しました。自分たちだけではなく、地域の方とともにプロジェクトを進めることができたのは貴重なことでした。



あのひとに届けたい!
ありがとうねバスケット



最終的に、381人、3,646,000円の支援をいただきました。今までのつながりを深めるとともに新たなつながりが生まれました。毎回支援とともに送られてくる「頑張ってるね」や「いぶきのお菓子おいしいので楽しみにしています」という言葉一つひとつに元気づけられました。



クラウドファンディングは毎回、たくさんの方の温かい気持ちに触れることができうれしく楽しい取り組みとなっています。皆様のご支援に感謝するとともに、これからもありがとうの輪が広がる取り組みを継続していきたいと思っています。

今後ともよろしくお願いします。



最新の活動報告

今回のクラウドファンディングに関する最新情報(返礼品発送など)を掲載しています



仲間のすかた

今井 遼太さん
いまい りょうた

いぶきソレイユ 川瀬 悟

毎日の日課を通して

今井遼太さんは、いぶきに通いだして今年で13年目になる仲間です。ドライブで電車を見ることがや音楽が大好きで、楽しい時には素敵な笑顔を見せてくれます。



ドライブ中に電車が通ると身を乗り出し、真剣な表情に

そんな今井さんは「あー！あー！」と声を出して色々なことを伝えてくれます。しかし私が最初に今井さんに会ったころ、正直に言って何を伝えたいのかが分かりませんでした。そして、その都度「え？何？これが気になるの？」と何度も聞き返していると、最後には今井さんが「あ～あ。分かってくれないな」という感じで「ふ～」とため息をついて、やりとりが終わるといことが何度もありました。しかし、ありがたいことに今井さんは諦めませんでした。しばらく時間をおいてまた「あー！」と自分の思いを伝えに来てくれたのです。私も「今度は何とか今井さんの思いをくみ取りたい！」という気持ちでそれに応える、そんなやりとりをどれだけ

繰り返したでしょうか。注意深く今井さんの表情を見ながら「今井さん、何が伝えたいの？ゆっくり聞くと、声をかけて今井さんの声に耳を傾けていると、少しずつ今井さんの伝えたいことが分かるようになっていきました。ずっと「あー！あー！」と言っていた今井さんの視線と指さす方向、声のトーンから「あ！扇風機消してほしいの？」と声をかけると、今井さんが「うん」と頷いて納得してくれた初めての瞬間はすごく嬉しくて今でもよく覚えています。そうして段々と今井さんの伝えたいことが分かってくると、今井さんの「あー！あー！」という声には実に色々な要望や意味、問いかけが含まれていることに気付き、とても驚きました。



仕事の後のテーブルをタオルできれいに拭き拭き

例えば、今井さんは音楽が大好きで、よく「あー！」と声を出しながらラジカセを指さしますが、シチュエーションによって同じ「あー！」でも「音楽をつけて」や「曲を変えて」、そして「リハビリに行くから音楽を消しといて」など、その時々で意味が違います。また、よくハンドルを握るジェスチャーをしながら声を出して「ドライブ」という合図をし

ます。ある時「ドライブ？うん今日行くよ」と答えても納得できずに、私の手をつかんで声を出し続けていることがありました。「え？ドライブのジェスチャーをしたのにドライブの話じゃない？どういうことだろう？」と考えながらいろいろな場面を思い返していると、あることに気が付きました。今井さんはドライブで一緒に行く職員によって、ドライブ中のテンションが変わります。お気に入りの職員と行くドライブでは楽しそうな笑顔で窓の外を指さしたりしていますが、まだ慣れていない職員とのドライブでは腕で顔を隠して目を閉じていることが多いです。「あ！分かった！誰と一緒にドライブに行くか気になっていたんだね！今日は〇〇さんだよ！」そう答えると「うん、うん」と首を縦に振って、私をつかんでいた手を放して納得してくれました。そうして毎日ていねいに今井さんに向き合っていくうちに、気が付くと今井さんが「ふ～」とため息をつくことはなくなり、以前よりもたくさん「あー！」と自分の思いを伝えに来てくれるようになりました。その後も、ドライブで見た電車の写真を今井さんのノートに貼って、一緒に見ながら「この時の電車かっこよかったね！」と声をかけたり楽しい気持ちを共有することを続けているうちに、ドライブが今井さんの中で、今までより更に楽しい日課になっていったようでした。

その後、ある日の朝の会で「今日の日課はドライブじゃなくて久しぶりに散歩だよ」と声をかけると「ドライブに行くつもりだったのに！」という感じで怒って、車椅子に乗ることを拒否して散歩に行



天気の良い日の散歩は気持ち良い！

くことができない日がありました。何度も「今日は散歩だよ。行こうよ」と声をかけても納得できない様子でした。散歩を嫌がる日が続いたので、今井さんが理解しやすくして納得しやすい伝え方はないか職員同士で相談しました。そこで、日課が書かれているホワイトボードに前日からドライブの写真・散歩の写真を掲示し、それを指さしながら「今井さん、明日は散歩だよ」と声をかけるといふうに伝え方を変えました。すると、「うんうん」と頷いて納得して散歩に行けるようになりました。今井さんは、見通しを持って生活をしていて写真という視覚的なものがあることで、より分かりやすく納得しやすかったようです。



大好きな職員に手を引いてもらい満面の笑顔

今でも、今井さんが何を伝えたいのか分からず困ってしまうこともありますし、思いが伝わらずに今井さんが怒って「シーッ！」と声を荒げることもあります。けれども、そういった場面も含めてゆっくりとていねいに一つずつ向き合って、これからも今井さんの気持ちに寄り添っていきたいです。そしてまた新しい今井さんの一面を発見していくことがとても楽しみです。



いぶきのおいしいストーリー♪

ポン菓子

第二いぶきアトリエ 澤井 大輔

いぶきのポン菓子『マカポン』は、“子どもから大人まで、幅広い方に愛されるお菓子になってほしい”そんな想いから誕生しました。

日本では大正時代から定番になったお菓子です。地域によって呼び名もさまざまあり、北海道では『どん菓子』、東京では『爆弾あられ』、大阪では『ぽんぽん』、そして岐阜では『ぽんはぜ』と呼ばれているそうです。

いぶきでは2017年から、この昔ながらのポン菓子機で、材料にはマカロニを使用して製造しています。材料を入れて密閉した窯を加熱していき、圧力が高まったら蓋をハンマーで叩いて解放します。この瞬間に「ポンッ」という大きな爆発音とともに、マカロニが勢いよく膨らんではいけません。天候や季節、マカロニの種類によって圧力の数値を若干変化させながらサクサク食感が生まれるように調整しています。



ハンマーでポン!!と打ちます

油で揚げていないから、カロリー控えめで、おやつはもちろんビールのおつまみ、牛乳やヨーグルトに合わせてシリアルのようにもお楽しみいただけます。

袋詰めやシール貼り、ねこの約束や道の駅への納品を仲間が担当しています。大野町にある道の駅「パレットピアおおの」では、直売所での販売だけでなくカフェで“パレットパフェポン!”というマカポンを使ったパフェを考案してくださいました。パフェができると知った時は仲間も職員も一緒に喜びました。パフェポンの発売の際には、仲間たちにも試食をすすめてくださり、み

さまざまなフレーバーがあります／



マカポン:シュガー・ラズベリー・和塩・カレーなど

んなおいしいパフェに大満足でした。こちらに納品するようになって約3年になりますが、毎回お店の方たちがあたたかく迎えてくださり、お客様の反応やマカポンの売れ行きなどを教えてくださいます。そんな雰囲気が仲間たちも大好きで、納品をととても楽しみにしています。

姉妹品に大豆をポンッとしたポリポリ食感の『まめドン』もあります。岐阜県可児市産“中鉄砲(ちゅうてっぽう)”

と言う希少大豆を利用しています。明智光秀にもゆかりのある大豆です。小粒ですが味が濃く力強い味わいが特徴です。

ポン菓子はまるで魔法のようにマカロニや大豆があるという間にお菓子に変身します。製造チームの名前は『ポンマジック』です。さてさて、次はどんなポン菓子を作ろうか、栗もやってみたい、お米もやってみたい、夏に向けて激辛カレーも面白いかも、そんなワクワク感と作り手の夢を乗せて今日も「ポンッ!」と大きな音が響きます。



まめドン:プレーン・和塩・黒糖など

新しい会員制度への移行についてのご案内

いぶき福祉会法人本部・いぶきファミリー事務局 北川 雄史

いぶきファミリー(いぶき福祉会後援会)は、27年間、社会福祉法人いぶき福祉会(以下、法人)とともに歩んできました。この「いぶき」というコミュニティの一員として、仲間たちの穏やかな暮らしを見守り応援して下さる会員のみなさまには、あらためて心よりお礼を申し上げます。

このたび、いぶきファミリーは、任意団体から新たに法人に設置された「いぶき福祉会会員」に移行します。手続き等でお手数をおかけいたしますが、今後、さらに会の運営の安定をはかり、いぶきの活動をより身近に感じていただけるよう努力していきたいと思っております。何卒ご理解と引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。概要は以下のとおりです。

名称	社会福祉法人いぶき福祉会会員※「いぶきファミリー」
会の目的	○法人のめざすものの実現にむけて必要な支援に取り組みます。 従来のいぶきファミリーの活動と法人の公益的な取り組みが統合され、法人の地域づくりの活動がより多様で積極的なものになります。
会員の種類	個人会員と法人会員
会費	○月額 1口 250円、500円、1,000円、3,000円、5,000円 の5種類 従来の年2,000円から増額になりますが、法人への寄付と同じ扱いとなり、所得控除の対象となります。また3年後には税額控除の対象となる予定です。
支払方法	○クレジットカード決済 下記アドレスまたは、右記のQRコードよりお手続きください。 https://deco-boco.jp/projects/view/12 ○郵便振替口座 00840-3-91146 いぶきファミリー
お知らせ	○いぶき福祉会会報「夢よもっとひろがれ」(4月・10月発行) ○年次報告書(年1回) ○日々の活動の様子は、ホームページいぶきの小窓でお楽しみください。

※社会福祉法人いぶき福祉会定款第25条に規定

税制優遇にむけての取り組みのご報告

社会福祉法人に寄付した場合、まずはその領収書をもって所得控除の申告をすることができます。さらに2011年度の税制改正で、個人が「一定の要件」を満たした社会福祉法人に寄付金を支出した場合、当該寄付金について税額控除制度の適用を受けることができるようになりました。その要件のひとつとして「法人に3000円以上の寄付金を支出した者(判定基準寄付者数)が年間100人以上×連続5年間」という実績が求められます。いぶき福祉会は、これまでパストラルいぶき建設をはじめ、たくさんの寄付をいただいておりますが、継続的な実績ではなく、要件を満たすにはあと3年間の実績が必要です。3年後には「税額控除対象法人」となり、ご寄付くださった皆様のご負担を軽くしたいと思っております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。